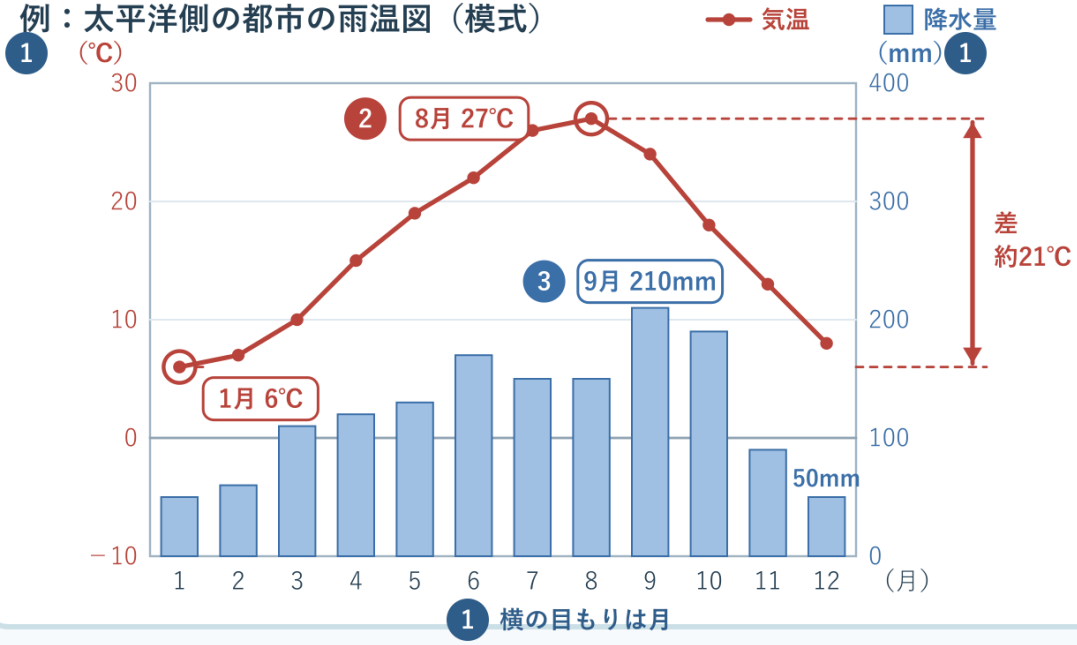
雨温図の読み方（気温と降水量）

雨温図から、その土地の気候の特色をどのように読み取ればよいのだろう

例：太平洋側の都市の雨温図（模式）



読む順（番号は上の図と同じ）

1 目もりを確かめる
横は月。左は気温（℃）で折れ線、右は降水量（mm）で棒を読む

2 折れ線を読む
いちばん暑い月は8月（27℃）、寒い月は1月（6℃）。差は約21℃

3 棒を読む
多いのは9月（210mm）、少ないのは12月と1月（50mm）

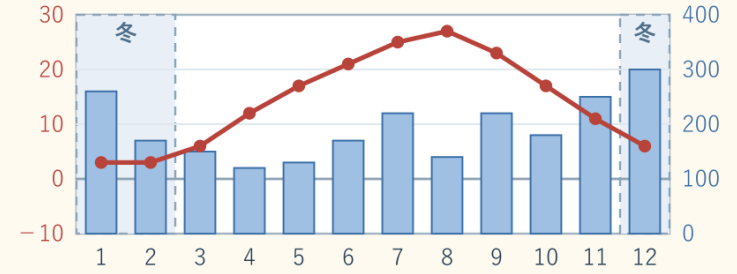
4 1年の降水量
12本の棒をたすと約1480mm

2つの都市の雨温図をくらべる

太平洋側の都市の例（左と同じ）



日本海側の都市の例



冬（12〜2月）の降水量をたすと

太平洋側　約160mm

日本海側　約730mm

日本海側は、冬の降水量（雪）がずっと多い。
冬の北西の季節風と山地のはたらきとつなげて考える

※ 雨温図は模式で、数値は架空の例（実測値ではない）。都市の名前は出していない。実際の雨温図は地図帳などで確かめる。